

公共事業再評価調査

整理番号	H29-7
------	-------

担当部課名	県土整備部 道路課	電話番号	017-734-9651
		E-MAIL	doro@pref.aomori.lg.jp

再評価実施要件	<input type="radio"/> 未着工 <input type="radio"/> 長期継続 (年) <input checked="" type="radio"/> 再評価後 (5 年) <input type="radio"/> その他 ()
---------	--

1 事業概要

事業種別	道路改築事業	事業主体	<input checked="" type="radio"/> 県 <input type="radio"/> 市町村 <input type="radio"/> その他 ()																																																		
事業名	県道改築事業	地区名等	名川階上線 剣吉踏切	市町村名	南部町																																																
事業方法	<input type="radio"/> 国庫補助 <input checked="" type="radio"/> 交付金 <input type="radio"/> 県単独 財源・負担区分 <input checked="" type="radio"/> 国 65 % <input checked="" type="radio"/> 県 35 % <input type="radio"/> 市町村 % <input type="radio"/> その他 %																																																				
採択年度	平成 15 年度 (用地着手 平成 20 年度 / 工事着手 平成 27 年度)																																																				
終了予定年度	平成 30 年度 (平成 29 年 3 月工期変更 (当初計画時 平成 28 年度))																																																				
事業目的	<p>本路線は、三戸郡南部町の国道104号を起点とし、三戸郡階上町地内に至る延長約33.0kmの幹線道路である。当該箇所 の整備により、国道104号の曲線部に鋭角に接続する交差点形状と、それに続く踏切部に隣接して存在する変則的な 交差点形状が解消され、安全性の向上と交通の円滑化に寄与するものである。</p> <p>【計画名称】青森県の道づくり基本方針(平成14年度策定)交流促進と連携強化を支援するあおもりの道づくり 【計画目標】①生活・経済圏の連携強化 ②農水産品の都市への円滑な輸送 ③国土保全を担う中山間地域と都市の支援 ④交通拠点へのアクセス性強化 ⑤救急医療体制の支援</p>																																																				
主な内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>再評価時</th> <th>再々評価時</th> <th>増 減</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>計画延長</td> <td>561 m</td> <td>561 m</td> <td>0 m</td> </tr> <tr> <td>計画幅員</td> <td>6.5(14.5) m</td> <td>6.5(14.5) m</td> <td>0 m</td> </tr> <tr> <td>改良工</td> <td>561 m</td> <td>561 m</td> <td>0 m</td> </tr> <tr> <td>舗装工</td> <td>8,200 m²</td> <td>8,200 m²</td> <td>0 m²</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table> <p>事業計画については、当初計画時と比較して変更はないが、鉄道事業者である青い森鉄道株式会社と踏切部工事 に関する設計・施工について協議し工事費を精査しところ、当初計画より総事業費が増加したものである。</p>					区 分	再評価時	再々評価時	増 減	計画延長	561 m	561 m	0 m	計画幅員	6.5(14.5) m	6.5(14.5) m	0 m	改良工	561 m	561 m	0 m	舗装工	8,200 m ²	8,200 m ²	0 m ²				0																								
区 分	再評価時	再々評価時	増 減																																																		
計画延長	561 m	561 m	0 m																																																		
計画幅員	6.5(14.5) m	6.5(14.5) m	0 m																																																		
改良工	561 m	561 m	0 m																																																		
舗装工	8,200 m ²	8,200 m ²	0 m ²																																																		
			0																																																		
事業費	<p>○当初計画時総事業費 1,680 百万円 (単位：百万円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>~26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>小 計</th> <th>30年度~</th> <th>合 計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>計 画</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>① 1,654</td> <td>221</td> <td>1,875</td> </tr> <tr> <td>(うち用地費)</td> <td>()</td> <td>()</td> <td>()</td> <td>()</td> <td>② (928)</td> <td>(124)</td> <td>(1,052)</td> </tr> <tr> <td>〈 年 月変更〉</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>実 績</td> <td>1,113</td> <td>172</td> <td>300</td> <td>100</td> <td>③ 1,685</td> <td>190</td> <td>⑤ 1,875</td> </tr> <tr> <td>(うち用地費)</td> <td>(921)</td> <td>(116)</td> <td>(15)</td> <td>(0)</td> <td>④ (1,052)</td> <td>(0)</td> <td>⑥ (1,052)</td> </tr> </tbody> </table>						~26年度	27年度	28年度	29年度	小 計	30年度~	合 計	計 画					① 1,654	221	1,875	(うち用地費)	()	()	()	()	② (928)	(124)	(1,052)	〈 年 月変更〉								実 績	1,113	172	300	100	③ 1,685	190	⑤ 1,875	(うち用地費)	(921)	(116)	(15)	(0)	④ (1,052)	(0)	⑥ (1,052)
	~26年度	27年度	28年度	29年度	小 計	30年度~	合 計																																														
計 画					① 1,654	221	1,875																																														
(うち用地費)	()	()	()	()	② (928)	(124)	(1,052)																																														
〈 年 月変更〉																																																					
実 績	1,113	172	300	100	③ 1,685	190	⑤ 1,875																																														
(うち用地費)	(921)	(116)	(15)	(0)	④ (1,052)	(0)	⑥ (1,052)																																														

2 評価指標及び項目別評価

(1) 事業の進捗状況

(A) ・ B ・ C

事業の進捗状況			計画全体に対する進捗	年次計画に対する進捗
	事業費割合		89.9 % [③/⑤]	101.9 % [③/①]
	(うち用地費)		(100 %) [④/⑥]	(113.4 %) [④/②]
	主要工程	改良工 (1,792百万円)	94.0 %	106.6 %
毎割合	舗装工 (83百万円)	0.0 %	0.0 %	
(事業費)	(百万円)	%	%	
説 明	<p>接続する国道104号との交差点計画協議(国交省)、交差する踏切設計施工協議(青い森鉄道)、剣吉荒町遺跡の調査スケジュール協議(文化財保護課)等の複数存在した関係機関との事前協議に不測の時間を要した。 人家密集地における現道拡幅事業であることから、用地補償費規模が大きなものとなり、事業費確保及び用地取得に複数年を要した。</p>			
問題点・解決見込み	<p>事業に対する地元理解が得られており、平成28年度において用地買収完了、また、上記関係機関との協議が終了し、今年度からは踏切部の工事に着手可能となったことから、今後は事業の円滑な遂行に努め、整備効果の早期発現を図る。</p>			
事業効果発現状況	<p>部分供用している区間はない。</p>			

(2) 社会経済情勢の変化

(A) ・ B ・ C

社会的評価	全国・本県における評価	<p>【全国の評価】</p> <p>平成27年9月に閣議決定された「第4次社会資本整備重点計画」では、将来にわたって安全・安心で豊かな国民生活と活力ある社会経済活動を可能とするために、選択と集中の方針の下、道路の持つストック効果を最大限に発揮させるよう整備を進めるとともに、地域の災害等のリスクを低減させるための道路整備を推進することが必要とされている。</p>	<p>【県内の評価】</p> <p>自動車交通への依存度が高い本県では、道路整備に対する根強い要望がある。 東日本大震災を契機として、これまで道路に必要とされてきた通行機能に加えて、災害発生時の防災機能（緊急物資輸送や避難路等）確保の重要性が再認識されている。</p>
	当地区における評価	<p>南部町方面エリアから国道104号へアクセスする重要な生活道路であることから、国道104号の曲線部に鋭角に接続する交差点形状と、それに続く踏切部に隣接して存在する変則的な交差点形状（五叉路）の早期改善が求められている。</p>	
必要性	<p>国道104号の曲線部に鋭角に接続する交差点形状と、それに続く踏切部に隣接して存在する変則的な交差点形状（五叉路）の早期改善が求められている。 南部町方面エリアと五戸町方面エリアは、馬淵川や青い森鉄道によって分断されていることからアクセス道が制約されている。そのアクセス道の一つとして位置づけられている当該区間の早期改善が求められている。</p>		a. b
適時性	<p>用地取得が平成28年度で完了していること、また、これまで踏切工事に向けた鉄道事業者（青い森鉄道）との設計協議を実施しており、平成29年度からは踏切・接続道路切替工事（平成29～31年度）という事業スケジュールが関係機関と協議済となっていることから、着実な工程管理が求められている。</p>		a. b
地元の推進体制等	<p>用地取得が平成28年度で完了していることから、当該地区の早期完成が求められている。</p>		a. b
効率性	<p>当該地域の円滑な通行が可能となることから、沿線地域の交通利便性や安全性の向上、歩道が未設置である現状の改善（歩行者の安全確保）、踏切事故の軽減に寄与する。</p>		

(3) 費用対効果分析の要因変化

A ・ (B) ・ C

区分	主な項目	再評価時	再々評価時	増減
費用項目 (C)	(1) 事業費	1,525 百万円	1,903 百万円	378 百万円
	(2) 維持修繕費	34 百万円	44 百万円	10 百万円
	(3)	百万円	百万円	0 百万円
	(4)	百万円	百万円	0 百万円
	(5)	百万円	百万円	0 百万円
		総費用	1,559 百万円	1,947 百万円
便益項目 (B)	(1) 走行時間短縮便益	441 百万円	519 百万円	78 百万円
	(2) 走行費用減少便益	26 百万円	38 百万円	12 百万円
	(3) 交通事故減少便益	0 百万円	0 百万円	0 百万円
	(4) 冬期便益	114 百万円	128 百万円	14 百万円
	(5) 防災便益	655 百万円	655 百万円	0 百万円
		総便益	1,236 百万円	1,340 百万円
	地域修正係数(φ)	1.461	1.461	
	修正総便益(B')	1,806 百万円	1,958 百万円	152 百万円
費用便益比	費用便益比(B/C)	0.79	0.69	
	修正費用便益比(B'/C)	1.16	1.01	
費用対効果分析 (B/C)	<p>【費用対効果分析手法】（分析手法、根拠マニュアル等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・費用便益分析マニュアル（平成20年11月 国土交通省 道路局 都市・地域整備局） ・道路整備事業における県独自の費用便益分析実施要綱（平成22年3月 青森県県土整備部道路課） ※踏切での安全性に関する記載なし 			a. b
計画時との比較	<p>【計画時との比較における要因変化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業費の増加に伴う費用便益比の減少 			a. (b)

(4) コスト削減・代替案の検討状況

(A)・B・C

コスト削減	【コスト削減の検討状況】 路盤材、舗装合材に再生材を使用し、経費の削減を図っている。 排水施設等の小規模構造物については、工場製品（二次製品）を使用することにより、工期の短縮及び経費の削減を図っている。	a. b
代替案	【代替案の検討状況】 代替案としては別ルートでの踏切交差（踏切新設）や橋梁構造による踏切除却が考えられる。 沿線には住宅が密集・隣接していることや、五叉路となっている接続道路とのアクセス位置が制約されること等の問題があることから、別ルートでの踏切交差や橋梁構造による踏切除却は現実的に不可能となった。 以上により、現道拡幅ルートを基本とする当該計画を最善策とし、関係機関との協議も済んでいる。	a. b

(5) 評価に当たり特に考慮すべき点

(A)・B・C

住民ニーズの把握状況	【住民ニーズの把握方法】 南部町から踏切周辺部の安全確保について要望が出されている。	【住民ニーズ・意見】 南部町方面エリアから国道104号へアクセスする重要な生活道路であることから、国道104号の曲線部に鋭角に接続する交差点形状と、それに続く踏切部に隣接して存在する変則的な交差点形状（五叉路）の早期改善が求められている。	a. b
環境影響への配慮	【開発事業等における環境配慮指針への対応】 (1)対応状況 ● 配慮している ○ 配慮していない (2)区分 ○ 農林地等の緑地や植生の改変 ● 地形や地盤の改変 ● 水系や水辺の改変 ○ 海域の改変 ● 建設機械の稼働 ○ 土砂等の搬出・搬入 ● 廃棄物処理等 ○ 道路(車歩道), 雨水排水路の設置 ● 基礎や地下建造物の建設 ○ 低層建築物の建設 ○ 高層建築物・大規模施設等の建設に係る環境配慮 ○ 高架構造物の建設 ○ 海底・海中建造物の設置や建設 (3)特に配慮する対応内容 ・低騒音並びに低排出ガス等自然環境へ配慮した建設機械の使用に努めている。特に、住宅地と近接していることから、朝夕や通勤・通学時間における騒音・振動対策及び交通渋滞対策には細心の注意を払う。 ・産業廃棄物は再資源化施設へ搬入し、リサイクルに努めている。		a. b
地域の立地特性	(地域指定) 過疎地域、農村地域工業等導入促進地区、農業振興地域 (災害の記録) なし (危険箇所情報) なし		

3 対応方針(事業実施主体案)

総合評価	● 継続 ○ 計画変更 ○ 中止 ○ 休止
評価理由	・費用対効果分析の要因変化が「B」評価であるものの、事業に関する関係機関と協議済みであり今後の展開について大きな課題もなく、沿道の環境改善が急務であることから対応方針を「継続」とした。
備考	

4 公共事業再評価等審議委員会意見

委員会意見	○ 対応方針(案)どおり ○ 対応方針(案)を修正すべき
委員会評価	○ 継続 ○ 計画変更 ○ 中止 ○ 休止
附帯意見	(附帯意見がある場合に記載)
評価理由	(委員会意見が「対応方針(案)を修正すべき」の場合に記載)